



バンコクでの屍体を用いた人工膝関節手術トレーニングの経験

2013年3月8-10日、澤田はタイの首都バンコクにあるチュラロンコン大学(1917年に設立されたタイ王国において最も古い歴史をもつ、権威ある国立大学)で行われた **Knee Current Issue Meeting** と **Cadaver training**(屍体を用いたトレーニング)に参加してきました。

バンコクはアユタヤーをはじめとする世界遺産や巨大な寝釈迦仏があるワット・ポーなどの寺院で有名な都市です。出国時、関西国際空港は肌寒い気候でしたが、バンコク・スワンナム国際空港到着時の気温30度以上、湿度80%と汗ばむような暑い気候でした。3月のバンコクは雨季(5月中旬-10月)と乾季(10月-2月中旬)の間の暑季の時期で雨は少ないですが、暑い季節でした。今回の参加は日本から13名の関節外科医で、年間400件の人工膝関節手術をされている先生方を含め人工膝関節手術の経験豊富な先生ばかりでした。大阪からの参加は私1人でした。1日目は学会発表形式の **Knee Current Issue Meeting** で、私は当センターで行っている「ハイブリッドナビゲーションテクニックによる人工膝関節」の発表をしました。発表はとても好評で高い評価を得ました。2日目はチュラロンコン大学での **Cadaver training** で、人工膝関節手術に対する **MIS(最小侵襲)**・最新医療機器を使用した人工膝関節単顆置換術を屍体で手術を行いました。右膝・左膝を交互に手術を行い、共に第一人者の先生方が教授してくれました。日本では医学生解剖実習で御遺体を使用しますが、このようなトレーニングは日本では難しくとても良い経験になりました。



前列右端 澤田と、日本からの12名の関節外科先生方



第一人者の先生による手術指導

人工膝関節の低侵襲手術に向けて

人工関節の手術は、股関節でも膝関節でもいかに小さい皮膚切開で手術を行えるか、さらに皮膚から関節に到達するまでに筋肉や周囲の組織を傷つけないで、低侵襲で手術ができるかが

関節外科医の大きなテーマです。低侵襲手術はこれまでの手術法に比べ、手術侵襲が少なく(患者様への負担が少なく)・早期回復が期待できるものです。今回の **Cadaver training** で使用した **Oxford Partial Knee** (人工膝関節単顆置換術) は、最小侵襲手術機器が開発され低侵襲での手術が可能となったもので、米国での10年の長期成績が98%と優れた成績が報告されている人工関節です。今後当センターでもこのような手術手技・手術機器を使用し、患者様への負担を軽減し早期回復を目指し、より良い治療を提供できるよう努めていきたいと思っております。



ワット・ポーの巨大寝釈迦仏(体長46m)
:膝がない?

チュラロンコン大学

当センターでは、患者様に負担の少ない人工関節手術を提供できるよう努めております。